

西部地域の持続的活用に向けたワーキンググループについて

1. 目的

屋久島の西部地域は、我が国有数の規模を誇る暖温帯常緑広葉樹林（照葉樹林）が広がっており、海岸線から山頂部にかけて、屋久島の世界遺産としての顕著な普遍的な価値の1つである植生の垂直分布の連続性が島内で唯一確保されている場所である。

暖温帯常緑広葉樹林には、ヤクシマザルやヤクシカが生息し、古くから生態学的な研究が盛んであるとともに、これらの野生動物やガジュマルの巨木、その他自然景観等を対象として、ガイドによるエコツアーのフィールドとしても活用されている。今後、ポストコロナにおける観光客の増大を見据えて、世界遺産にふさわしい持続的かつ魅力的な利用のあり方を検討し、利用ガイドラインとして整備していく必要がある。また、この地域には島一周道路が通過し、一般観光客のアクセスも容易であることから、特にドライブ利用者における野生動物への餌やり事例が近年報告されており、野生動物本来の生態への悪影響が懸念されている。

以上のことから、西部地域の生態系に最大限配慮することを前提として、持続的に活用していくことを目的として、関係者が連携して利用ガイドラインや一般観光客向けの利用マナー等を整備するとともに、様々な研究成果を土台として、世界遺産にふさわしいエコツアーの優良事例の形成に向けて、具体的アクションを伴う検討を行っていく。

2. 検討事項

- ・西部地域の持続的活用にかかる事項（特に、優良事例の形成に向けたガイド登録認定制度との連携や利用ガイドライン、ガイドブック作成等について）

3. 構成員

<管理機関>

九州地方環境事務所（国立公園課長）
屋久島自然保護官事務所（首席企画官）
九州森林管理局（計画課長）
屋久島森林管理署（署長）
屋久島森林生態系保全センター（所長）
鹿児島県（自然保護課長）
熊毛支庁屋久島事務所（総務企画課長）
屋久島町（観光まちづくり課長）

<地元関係機関・団体>

屋久島環境文化財団（事務局長、事業課長）
公益社団法人屋久島観光協会ガイド部会（関係ガイド事業者有志 複数名）

<有識者・研究者>

杉浦 秀樹（京都大学野生動物研究センター 准教授）
手塚 賢至（屋久島ヤクタネゴヨウ調査隊 代表）
湯本 貴和（京都大学 名誉教授）